

## 第6回国際会議等の北海道開催の推進に係る各省庁連絡会議 議事概要

1. 日 時：平成24年8月1日（水）13:30～14:30
2. 場 所：中央合同庁舎3号館11階特別会議室
3. 出 席：〔省庁〕内閣官房、内閣府、公正取引委員会、警察庁、金融庁、総務省、  
公害等調整委員会、法務省、外務省、財務省、文部科学省、  
厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、防衛省、  
人事院、会計検査院  
〔北海道〕加藤北海道東京事務所長、山澄北海道総合政策部知事室次長  
〔国土交通省北海道局〕関大臣官房審議官、川合参事官、北田計画推進  
企画官、熊谷開発専門官  
〔国土交通省観光庁〕谷合観光渉外官

### 4. 議事次第

#### (1) 開会

#### (2) 議事

- 1) 向こう5年間の国際会議等の開催計画等について
- 2) 国際会議の開催誘致のための海外への情報発信のあり方に関する調査結果について
- 3) 観光庁におけるMICE開催・誘致の取組について（観光庁）
- 4) 北海道における国際会議等開催の状況及び北海道の取組について（北海道）

#### (3) 閉会

### 5. 議事及び主な発言内容等

#### 1) 向こう5年間の国際会議等の開催計画等について

<資料2-1～2-3について事務局より説明。>

- ・平成23年度の国の機関等による国際会議等の開催実績は10件であった。
- ・平成24年度以降、向こう5年間の北海道における国際会議等の開催計画について、平成24年度は開催済みを含めて8件、平成25年度以降は7件の開催が予定されている。
- ・日本国内における開催地が未定である会議については、今後、北海道開催を積極的に検討していただきたい。

#### 2) 国際会議の開催誘致のための海外への情報発信のあり方に関する調査結果について

<資料2-4について事務局より説明。>

- ・「コンベンション施設の充実ぶり」、「交通アクセス(国内、国際)」、「宿泊施設の充実ぶり」や「開催テーマとの関わり」については、「開催地として備えるべき必須の要素」とするものの割合が高く、開催地選定の際の「主」たる判断材料となっていることがうかがえる。

- ・一方、「個性あふれる食文化」、「豊かな自然環境」、「歴史と伝統文化」など都市の魅力に類する要素については、重要度はある程度高いものの、あくまでも「従」たる判断材料となっているものと考えられる。
- ・開催地選定の際の主な判断材料は、「日本の関係者からの提供情報」によるケースが圧倒的に高く、多くの国際会議において日本側関係者が海外関係者に向けて積極的に情報発信を行っていることがうかがえる。

### 3) 観光庁におけるMICE開催・誘致の取組について（観光庁）

<資料3について観光庁より説明。>

- ・2011年に日本で開催された国際会議は震災の影響もあると見られるものの世界第13位、アジア第2位（ICCA統計より）となった。アジア域内の競争は激化しており、このままでは日本の地位失墜のおそれがある。
- ・観光立国推進基本計画（平成24年3月30日閣議決定）では、MICE分野の国際競争力強化を掲げているが、その中で今後取り組むべき政策課題としている「マーケティング戦略の高度化」、「MICE産業の競争力強化」、「受入環境の整備」等を通じ、官民を挙げてMICE分野の国際競争力を強化する必要がある。（それぞれの論点等について、資料に基づき説明。）

### 4) 北海道における国際会議等開催の状況及び北海道の取組について

<資料4に基づき北海道から説明。>

- ・札幌開催が多くなっているが、他地域においても十分な対応が可能と考えている。今後、北海道で国際会議等を開催することとなった際には、札幌に加えその他の地方開催も含めて検討いただきたい。
- ・国際会議を開催するに当たり、北海道はアジアを中心とする充実した交通アクセスを有している。【国際定期航空路線：9路線、最大11路線 ※24.8.1現在】
- ・平成23年の訪日外国人来道者数の傾向について、昨年3月11日に発生した東日本大震災以降落ち込んでいたが、第3四半期には前年並みに回復した。

以上

（速報のため、事後修正の可能性があります。）